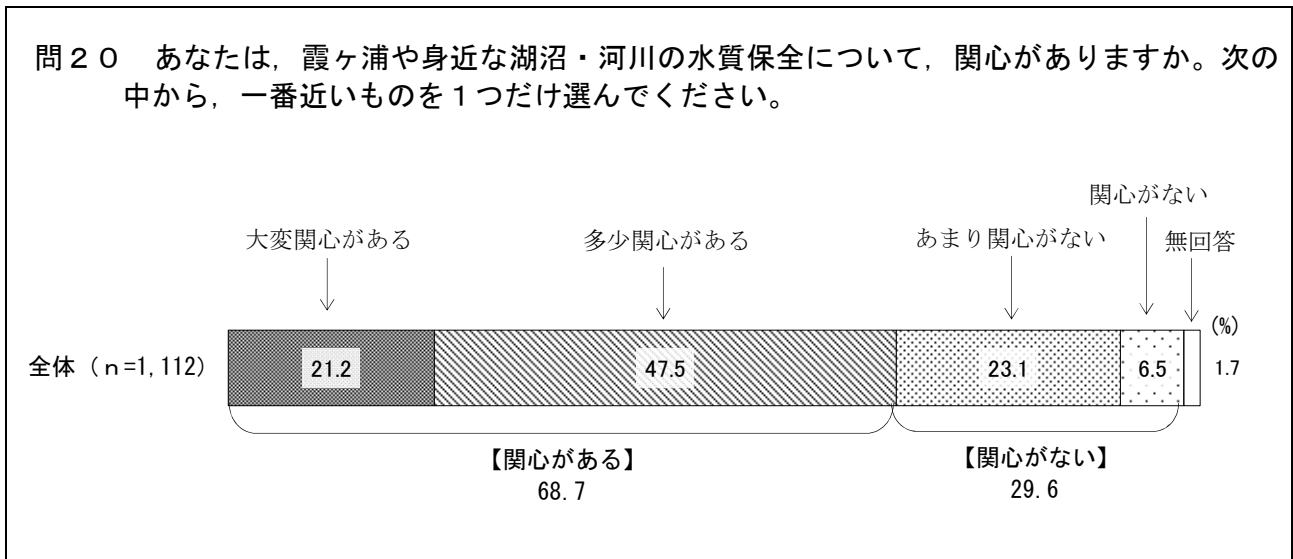


VI 霞ヶ浦等の湖沼・河川の浄化

1. 霞ヶ浦や身近な湖沼・河川の水質保全への関心度

－【関心がある】が約7割－



霞ヶ浦や身近な湖沼・河川の水質保全についての関心度としては、「大変関心がある」(21.2%)と「多少関心がある」(47.5%)を合わせた【関心がある】(68.7%)が約7割と高くなっている。

－県央と県南で【関心がある】が約8割－

地域別でみると、【関心がある】は、県央(79.8%)と県南(79.8%)で約8割と高くなっている。

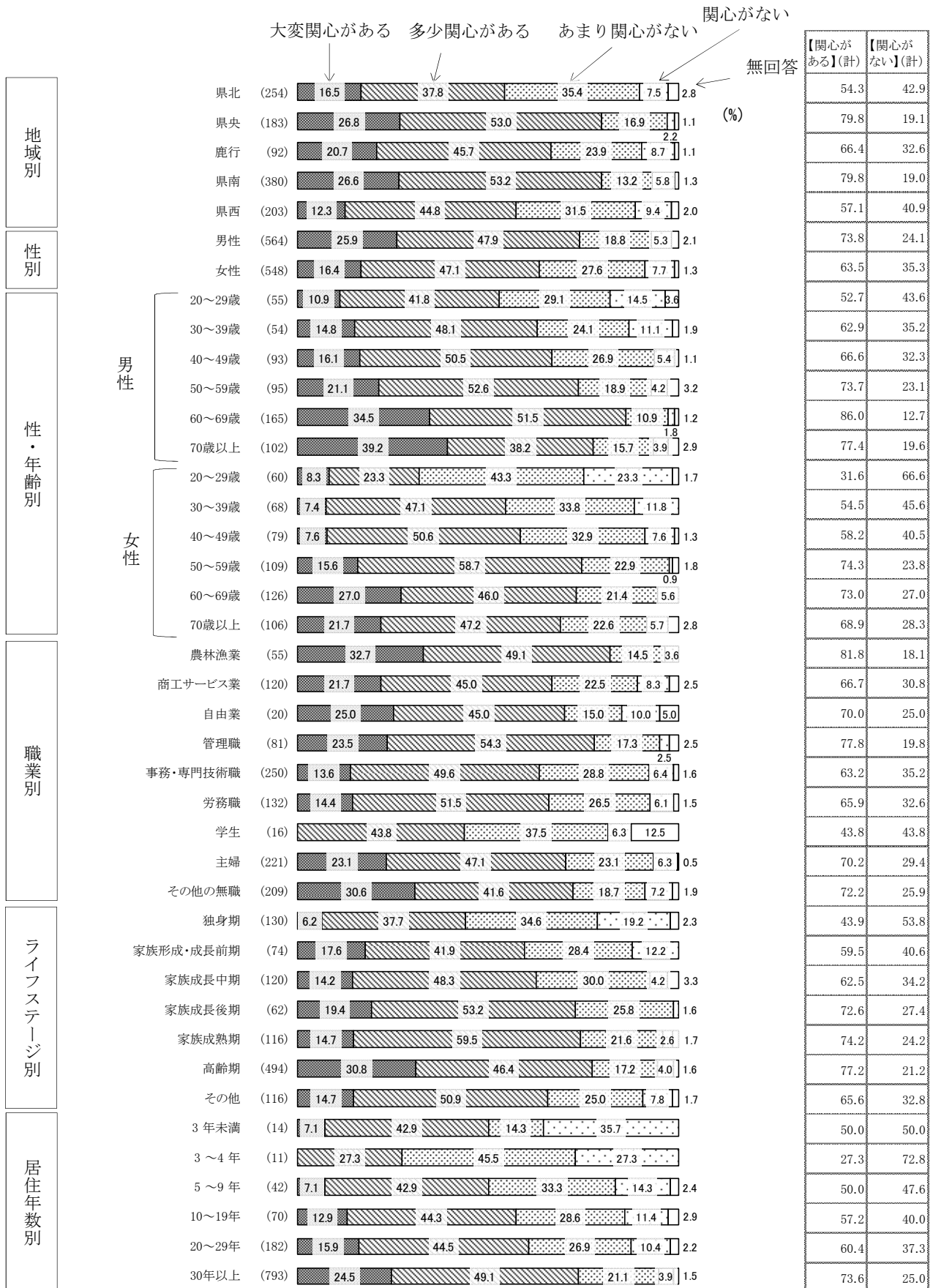
－男性で【関心がある】が女性よりも約10ポイント高い－

性別でみると、【関心がある】は、男性(73.8%)が女性(63.5%)よりも約10ポイント高くなっている。特に、「大変関心がある」は、男性(25.9%)が女性(16.4%)よりも9.5ポイント高くなっている。

－男性の60代で【関心がある】が8割台半ば－

性・年齢別でみると、【関心がある】は、男性の60代(86.0%)で8割台半ばと最も高くなっている。

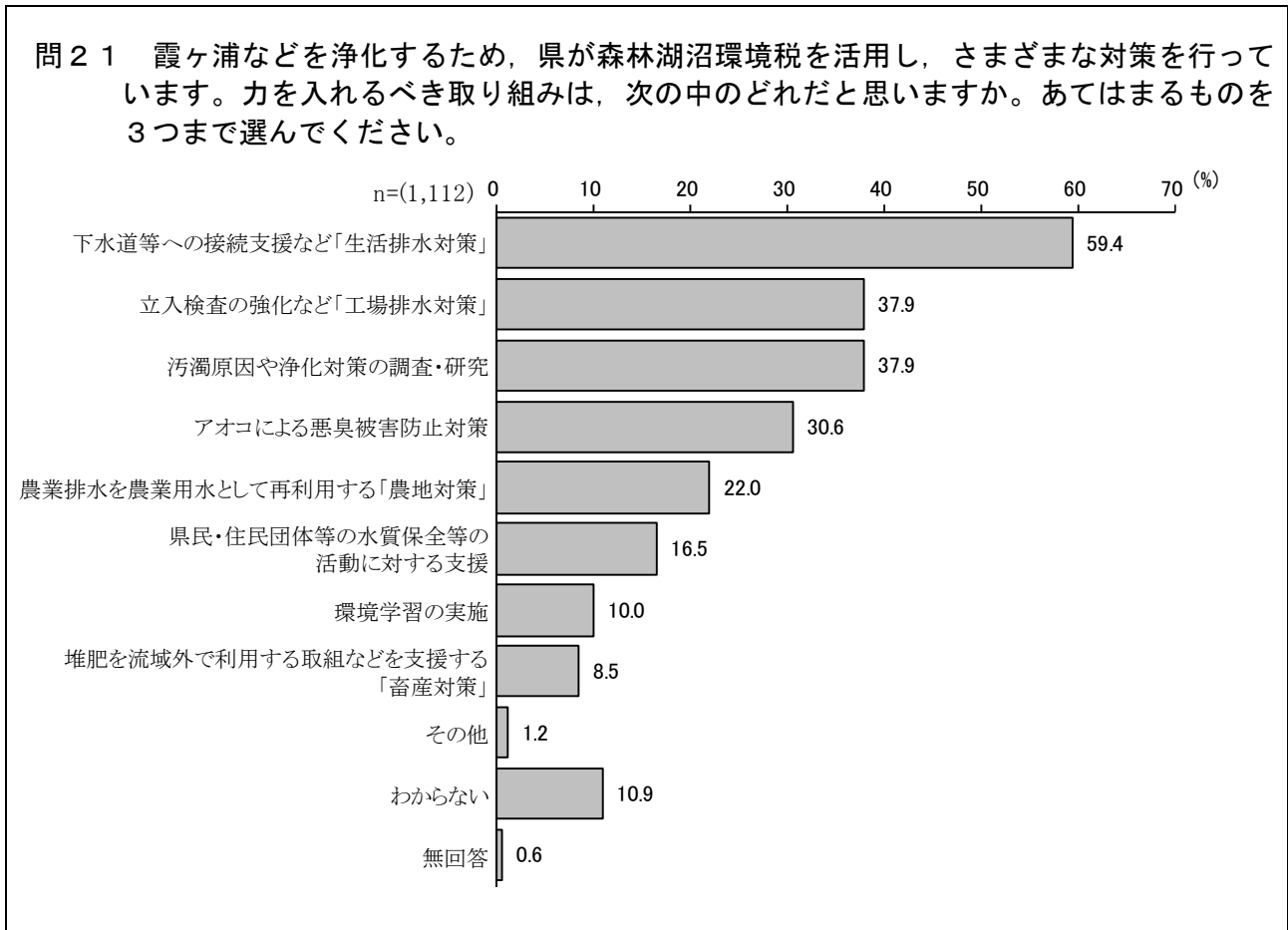
図VI 20-1 霞ヶ浦や身近な湖沼・河川の水質保全への関心度
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

2. 霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組み

－「下水道等への接続支援など「生活排水対策」が約6割－



霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組みとしては、「下水道等への接続支援など「生活排水対策」」(59.4%)が約6割と最も高く、次いで、「立入検査の強化など「工場排水対策」」(37.9%)、「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」(37.9%)、「アオコによる悪臭被害防止対策」(30.6%)が3割台で続いている。

－鹿行で「下水道等への接続支援など「生活排水対策」が約7割－

地域別でみると、「下水道等への接続支援など「生活排水対策」」は、鹿行(67.4%)で約7割と最も高くなっている。

－県南で「アオコによる悪臭被害防止対策」が約4割－

地域別でみると、「アオコによる悪臭被害防止対策」は、県南(39.7%)で約4割と最も高くなっている。

－男性で「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」が女性よりも約9ポイント高い－

性別でみると、「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」は、男性(42.2%)が女性(33.6%)よりも約9ポイント高くなっている。

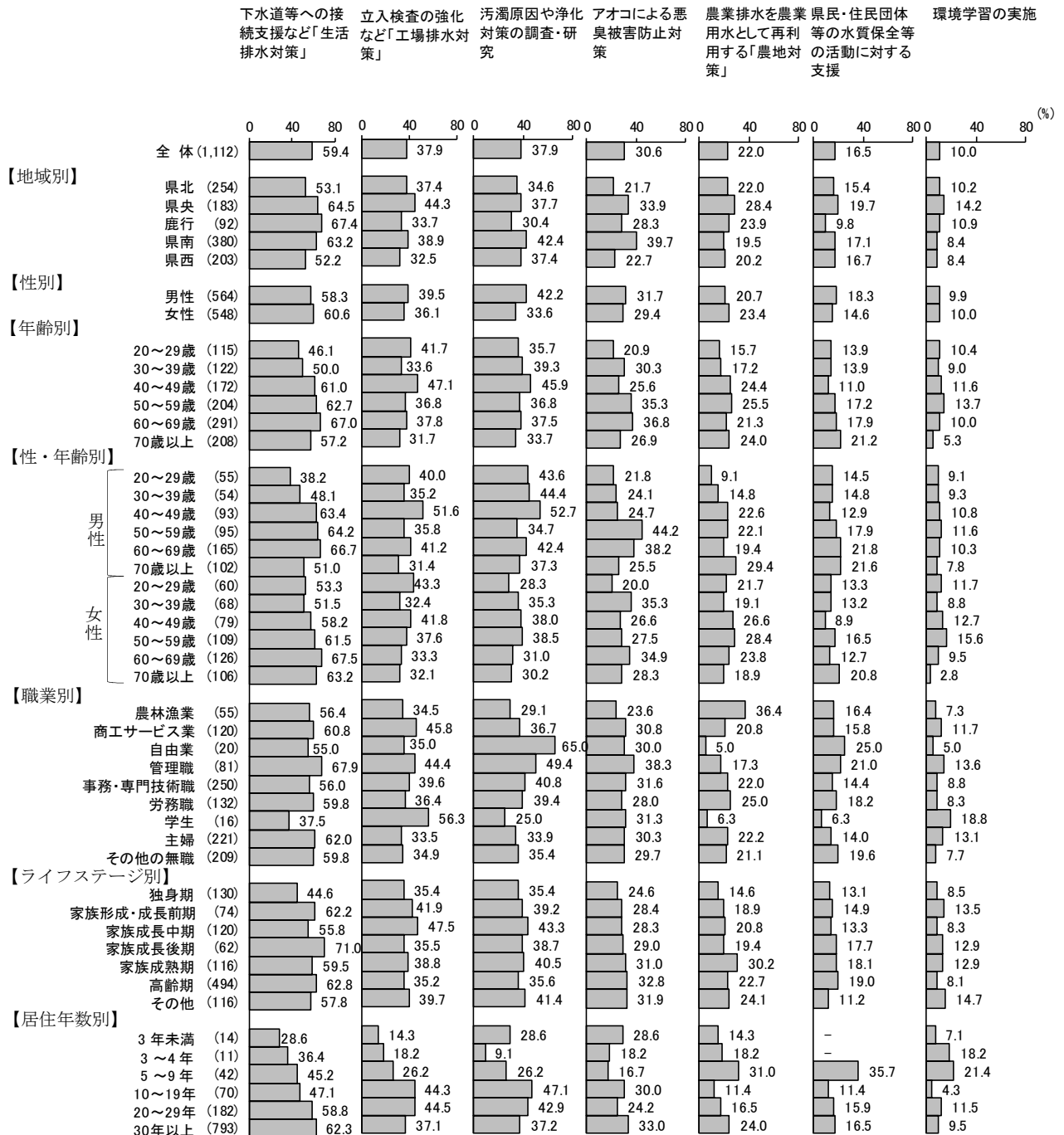
－60代で「下水道等への接続支援など「生活排水対策」が約7割－

年齢別でみると、「下水道等への接続支援など「生活排水対策」」は、60代(67.0%)で約7割と最も高くなっている。

一男性の40代で「立入検査の強化など「工場排水対策」と「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」が5割超一

性・年齢別でみると、「立入検査の強化など「工場排水対策」(51.6%)と「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」(52.7%)は、男性の40代で5割を超えて高くなっている。

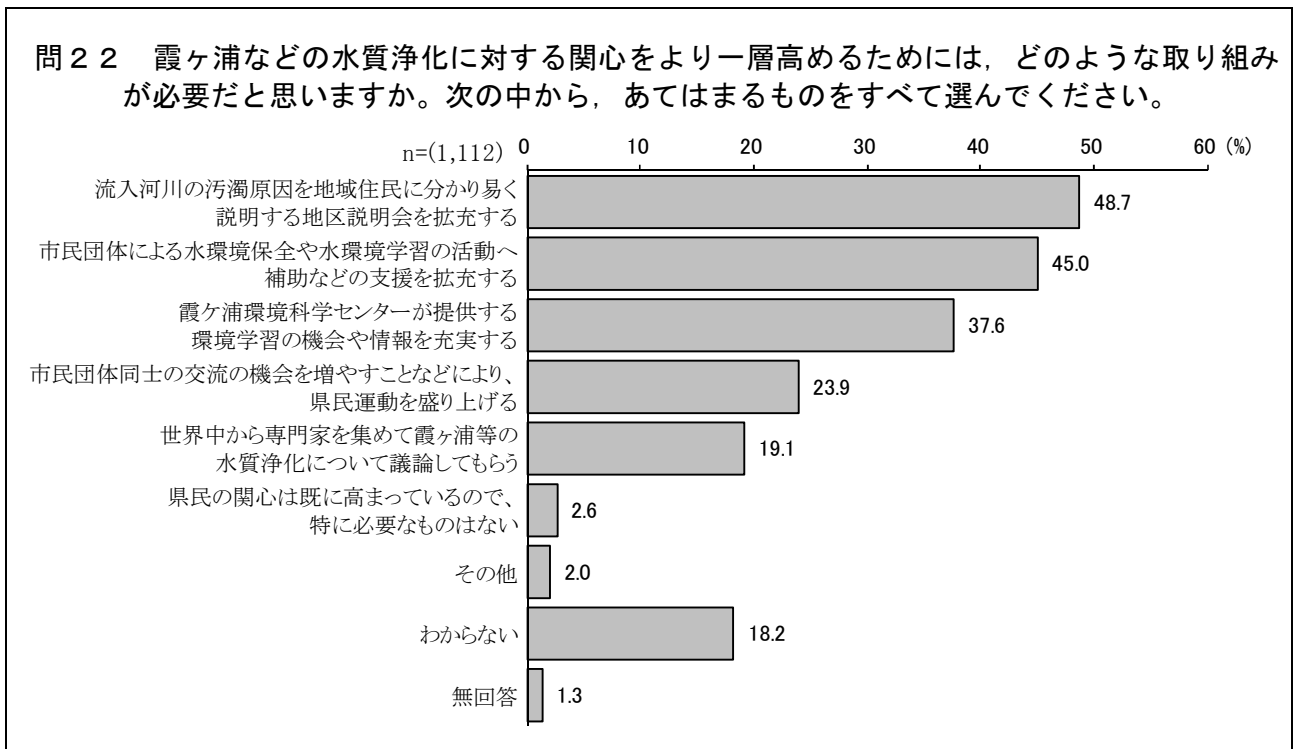
図VI 21-1 霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組み
(地域別, 性別, 年齢別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別—上位7項目)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

3. 水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組み

－「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が約5割－



霞ヶ浦などの水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組みとしては、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」(48.7%)が約5割と最も高く、次いで、「市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する」(45.0%)が4割台半ば、「霞ヶ浦環境科学センターが提供する環境学習の機会や情報を充実する」(37.6%)が3割台で続いている。

－県央と県南で「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が5割台半ば－

地域別でみると、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」は、県央(53.0%)と県南(55.0%)で5割台半ばと高くなっている。

－県央で「市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する」が5割超－

地域別でみると、「市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する」は、県央(52.5%)で5割を超えて最も高くなっている。

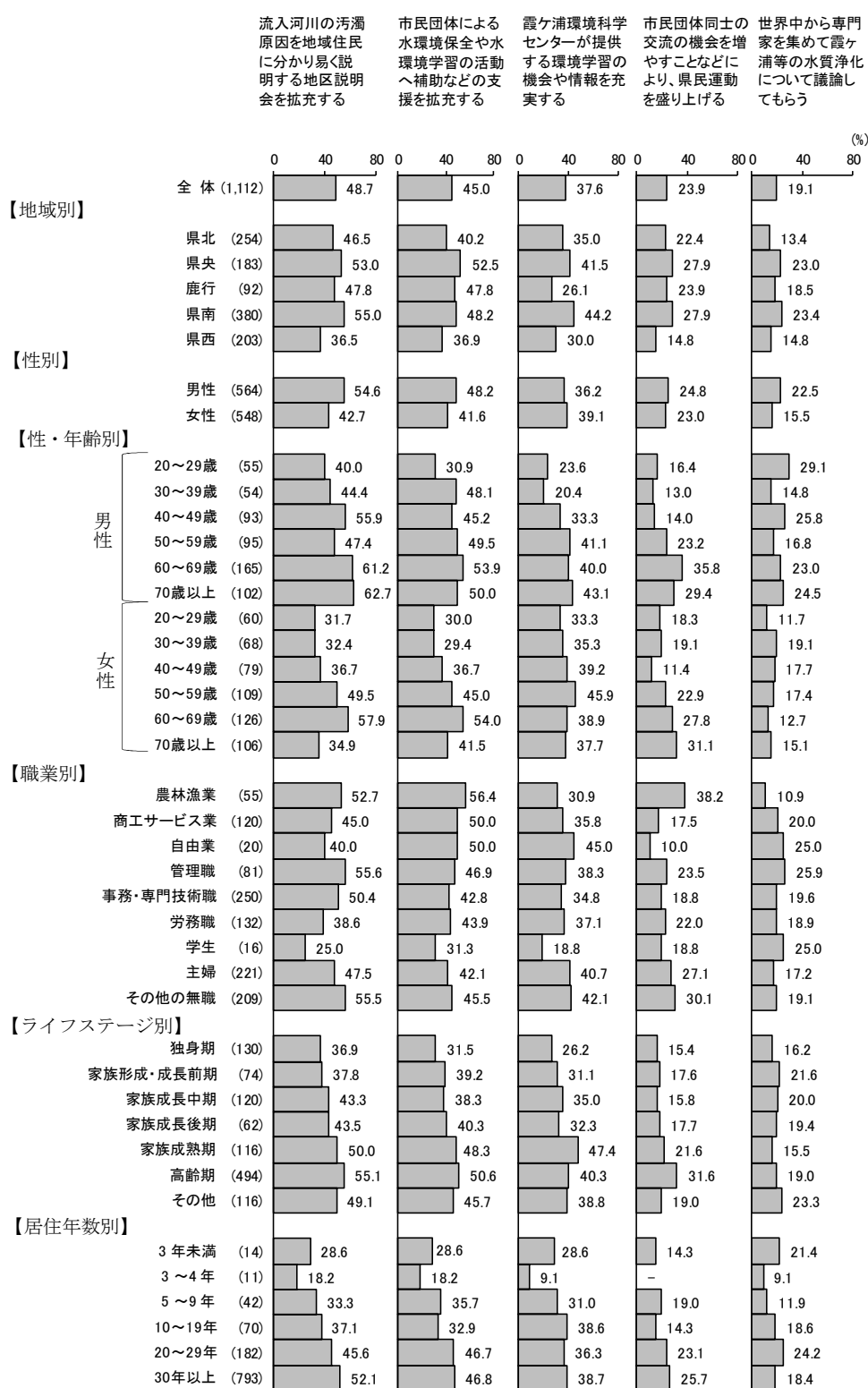
－男性で「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が女性よりも約12ポイント高い－

性別でみると、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」は、男性(54.6%)が女性(42.7%)よりも約12ポイント高くなっている。

－男性の60代と70歳以上で「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が6割超－

性・年齢別でみると、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」は、男性の60代(61.2%)と70歳以上(62.7%)で6割を超えて高くなっている。

図VI 22-1 水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組み
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別—上位5項目)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。